

病理学 1

年次	学期	学則科目責任者
2年次	後学期	久山 佳代 (口腔病理学)

学習目標 (G I O)	<p>疾病は生体の機能や構造, あるいはその両者が正常範囲から逸脱した現象であり, その原因を「病因」, 表出した状態を「病態」と称する。種々の疾病を総合的に理解するためには病因と病態ならびにそれらを結びつけている過程・経過における変化や現象 (病変) を考究しなければならず, この理解なくしては医療・歯科医療が成立しない。さらに, 疾病を理解することは基礎歯科医学から臨床歯科医学への橋渡しとなる。したがって, この科目は疾病の本態を理解するために, その成り立ちや理論を習得し, ひいては歯科医師として必要な問題発見及び問題解決能力を身につけることを目標とする。</p>
担当教員	<p>久山 佳代、宇都宮 忠彦、木場 秀夫、齋藤 美雪、末光 正昌、※山本 浩嗣、※豊澤 悟、※田中 秀邦、※齋藤 隆明、※太田 泰人、※小泉 康之、※新崎 博文、※猪又 俊之、※大石 善也、※大村 光浩、※黒子 光雄、※小泉 歩、※茂田 里恵、※白川 誠二、※神向寺 登美夫、※鈴木 彰、※鈴木 慶洋、※田中 強、※玉城 吉夫、※中澤 啓介、※中島 十四夫、※中村 文彦、※永井 隆雄、※西山 孝宏、※林 正人、※本多 豊彦、※松村 由香、※三宅 正純、※村守 樹理、※ルエィ マリア、※山本 雅博、※脇田 雅文、※山本 泰、※阿部 洋太郎</p>
教科書	<p>病理・口腔病理組織学実習提要 日本大学松戸歯学部口腔病理学教室編 日本大学松戸歯学部口腔病理学教室 スタンダード病理学 下野正基編 学建書院 スタンダード口腔病態病理学 賀来亨・槻木恵一編 学建書院</p>
参考図書	<p>歯学生のための一般病理アトラス 賀来亨・山本浩嗣編 永末書店 口腔病理アトラス 高木實監修 文光堂</p>
評価方法 (E V)	<p>1) 平常試験 1 (25%), 後半試験 (25%), 平常試験 2 (40%), チェックテスト (5%) 及び実習帳 (5%) を目安として算出し, 60 点以上を合格点とする。ただし, 受講態度を加味できる。 2) 合格点に達しなかったものには再試験を実施することがある。ただし, 欠席数 (正当な理由のない) が全体の 1/5 以上のものは再試験の受験資格がない。 3) 不合格者の評価は 0 ~ 59 点とする。</p>
学生へのメッセージ オフィスアワー	<p>病理学は歯科医師となるのに必要不可欠な知識と技能を学ぶ学問です。そして, 歯科医師として身につけておくべきマナーも重要な教育要素と考えています。真摯な努力と誠意, 熱意をもって学習してください。きっと良い歯科医師になることと信じます。学習の姿勢としては, 正常の人体の構造と機能の知識の復習とともに予習を必ず行ってください!!</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/09/30 (水) 1時限 09:00~10:30	病因論	<p>【授業の一般目標】 病因・病態を理解するために, 疾病の成り立ちと病態との関連性について基礎的知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 外因を列挙できる。 2. 外因の関与する代表的疾患の病態について述べるができる。</p> <p>【準備学習項目】 ・疾患の内因と外因を列挙できる。 ・6 大病変を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室、マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 1 病因論 イ 環境と疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 a 健康・疾病の概念</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-4) 環境と健康 *①環境による健康への影響を説明できる。</p>	久山 佳代
2015/09/30 (水) 2時限 10:40~12:10	病因論	<p>【授業の一般目標】 病因・病態を理解するために, 疾病の成り立ちと病態との関連性について基礎的知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p>	宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/09/30 (水) 2時限 10:40～12:10	病因論	<p>1. 疾病の原因と成り立ちとの関連性について説明できる。 2. 内因を列挙できる。 3. 内因の関与する代表的疾患の病態について述べることができる。</p> <p>【準備学習項目】 ・疾患の内因と外因を列挙できる。 ・6 大病変を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室、マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 1 0 2 教室、第2 実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 1 病因論 ア 染色体・遺伝子・発生の異常</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常、発育異常 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 h 先天異常、発育異常</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。 *②口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。</p>	宇都宮 忠彦
2015/10/07 (水) 1時限 09:00～10:30	細胞障害、組織障害及び萎縮 (退行性病変/代謝障害)	<p>【授業の一般目標】 退行性病変及び代謝障害を理解するために、細胞障害、組織障害及び萎縮の病因・病態と生物学的意義について学習する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 退行性病変の医学的意義について述べるができる。 2. 萎縮の原因、種類、形態学的特徴及び代表的疾患の病態について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・退行性病変における萎縮、変性及び壊死の定義について述べるができる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102 教室、マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 1 0 2 教室、第2 実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 2 細胞組織の傷害 イ 萎縮</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 2 細胞組織の傷害 イ 萎縮 ウ 細胞死 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-1) 細胞傷害、組織傷害および萎縮 *①細胞傷害と組織傷害について説明できる。【変性を含む。】 *②壊死の多様性、原因、意義および形態的所見の特徴を説明できる。 *③アポトーシスと疾患の関連性について説明できる。 *④萎縮と仮性肥大を説明できる。</p>	田中 秀邦 末光 正昌
2015/10/07 (水) 2時限 10:40～12:10	細胞障害、組織障害及び萎縮 (退行性病変/代謝障害)	<p>【授業の一般目標】 退行性病変/代謝障害を理解するために細胞障害、組織障害及び萎縮の病因・病態と生物学的意義について学習する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 変性の定義を述べることができる。 2. 変性の原因、種類、形態学的特徴及び代表的疾患の病態について説明できる。 3. 壊死、壊疽、アポトーシスの成因、意義、多様性及び病態について解説でき</p>	田中 秀邦 末光 正昌

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/10/07 (水) 2時限 10:40~12:10	細胞障害, 組織障害及び萎縮 (退行性病変/代謝障害)	る。 【準備学習項目】 ・退行性病変における萎縮, 変性及び壊死の定義について述べるができる。 【学習場所・媒体等】 102教室、マルチメディアの併用 【学習方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 2 細胞組織の傷害 ア 代謝障害 (変性) 【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 2 細胞組織の傷害 イ 萎縮 ウ 細胞死 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-1) 細胞傷害、組織傷害および萎縮 *①細胞傷害と組織傷害について説明できる。【変性を含む。】 *②壊死の多様性、原因、意義および形態的所見の特徴を説明できる。 *③アポトーシスと疾患の関連性について説明できる。 *④萎縮と仮性肥大を説明できる。	田中 秀邦 末光 正昌
2015/10/14 (水) 1時限 09:00~10:30	退行性病変の病理組織学	【授業の一般目標】 退行性病変及び代謝障害を理解するために、細胞傷害、組織傷害及び萎縮の病因・病態と生物学的意義について学習する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 退行性病変に分類される疾患や病変の病理組織学的特徴について説明できる。 【準備学習項目】 ・退行性病変における萎縮, 変性及び壊死の定義と病理学的特徴について述べるができる。 【学習場所・媒体等】 第2実習室, 顕微鏡-テレビシステムの併用 【学習方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 5 炎症 ア 炎症の概念 イ 炎症の原因 ウ 炎症に関与する細胞 エ 炎症の機序・病態 オ 急性炎症、慢性炎症 カ 肉芽腫性炎の種類・特徴 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-1) 細胞傷害、組織傷害および萎縮 *①細胞傷害と組織傷害について説明できる。【変性を含む。】 *②壊死の多様性、原因、意義および形態的所見の特徴を説明できる。 *③アポトーシスと疾患の関連性について説明できる。 *④萎縮と仮性肥大を説明できる。	末光 正昌 久山 佳代 宇都宮 忠彦 木場 秀夫 齋藤 美雪 豊澤 悟 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 康之 小泉 隆明 齋藤 里恵 茂田 誠二 白川 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 本多 豊彦 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 ルニエイ マリア 山本 浩嗣 山本 雅博 脇田 雅文 神向寺 登美夫 永井 隆雄 山本 泰 阿部 洋太郎
2015/10/14 (水) 2時限 10:40~12:10	退行性病変の病理組織学	【授業の一般目標】 退行性病変及び代謝障害を理解するために、細胞傷害、組織傷害及び萎縮の病因・病態と生物学的意義を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 退行性病変に分類される疾患や病変の病理組織学的特徴について説明できる。 【準備学習項目】 ・退行性病変における萎縮, 変性及び壊死の定義と病理学的特徴について述べる	末光 正昌 久山 佳代 宇都宮 忠彦 木場 秀夫 齋藤 美雪 豊澤 悟 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/10/14 (水) 2時限 10:40～12:10	退行性病変の病理組織学	<p>ることができる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第2 実習室、顕微鏡－テレビシステムの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102 教室、第2 実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 2 細胞組織の傷害 ア 代謝障害 (変性) イ 萎縮 ウ 細胞死</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-1) 細胞傷害、組織傷害および萎縮 *①細胞傷害と組織傷害について説明できる。【変性を含む。】 *②壊死の多様性、原因、意義および形態的所見の特徴を説明できる。 *③アポトーシスと疾患の関連性について説明できる。 *④萎縮と仮性肥大を説明できる。</p>	大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉介 中澤 啓夫 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 本多 豊彦 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 村守 マリ 山本 浩嗣 山本 雅博 山本 雅文 神向寺 登美夫 山本 泰 阿部 洋太郎 永井 隆雄
2015/10/21 (水) 1時限 09:00～10:30	循環障害	<p>【授業の一般目標】 循環障害を理解するために、その分類、病因及び病態について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 虚血、充血、うっ血、出血の成り立ち、種類、病態及び転帰について説明できる。 2. 側副循環の異常の成因、種類及び関連する疾患について述べる事ができる。 3. ショックの成因、分類及び病態について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・血液及びリンパ液の循環 (経路) について説明できる。 ・循環血液量の異常の種類を列挙できる。 ・閉塞性の循環障害の種類を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102 教室、マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102 教室、第2 実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 4 循環障害 イ 局所の血液分布異常</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 h 循環障害 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 4 循環障害 ア 全身の循環障害 イ 局所の血液分布異常 ウ 閉塞性の循環障害</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-3) 循環障害 *①虚血、充血およびうっ血の徴候、原因および転帰を説明できる。 *②出血の原因、種類および転帰を説明できる。 *③血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。 *④塞栓の成因、種類および転帰を説明できる。 *⑤梗塞の種類、形態学的特徴および転帰を説明できる。 *⑥浮腫の原因とその転帰を説明できる。 *⑦ショックの成因と種類を説明できる。</p>	木場 秀夫
2015/10/21 (水) 2時限 10:40～12:10	循環障害	<p>【授業の一般目標】 循環障害を理解するために、その分類、病因、病態及び医学的意義について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 血栓、塞栓、梗塞の種類、成り立ち、病態及び転帰について説明できる。 2. 播種性血管内凝固症候群(DIC) の成因と病態について解説できる。</p>	木場 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/10/21 (水) 2時限 10:40～12:10	循環障害	<p>3. 浮腫の成り立ちや病態について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液及びリンパ液の循環（経路）について説明できる。 ・循環血液量の異常の種類を列挙できる。 ・閉塞性の循環障害の種類を列挙できる。 <p>【学習場所・媒体等】</p> <p>102教室、マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>歯科医学総論 総論VI 病因、病態 4 循環障害 ウ 閉塞性の循環障害</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 h 循環障害 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 4 循環障害 ア 全身の循環障害 イ 局所の血液分布異常</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-3) 循環障害 *①虚血、充血およびうっ血の徴候、原因および転帰を説明できる。 *②出血の原因、種類および転帰を説明できる。 *③血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。 *④塞栓の成因、種類および転帰を説明できる。 *⑤梗塞の種類、形態学的特徴および転帰を説明できる。 *⑥浮腫の原因とその転帰を説明できる。 *⑦ショックの成因と種類を説明できる。</p>	木場 秀夫
2015/10/28 (水) 1時限 09:00～10:30	循環障害の病理組織学	<p>【授業の一般目標】</p> <p>循環障害を理解するために、その分類、病因、病態及び医学的意義について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>1. 循環障害による主な疾患の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環血液量の異常の種類を列挙し、病理学的特徴について説明できる。 ・閉塞性の循環障害の種類を列挙し、病理学的特徴について説明できる。 <p>【学習場所・媒体等】</p> <p>第2実習室、顕微鏡－テレビシステムの併用</p> <p>【学習方略（LS）】</p> <p>実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 h 循環障害</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>歯科医学総論 総論VI 病因、病態 4 循環障害 ア 全身の循環障害 イ 局所の血液分布異常 ウ 閉塞性の循環障害</p>	<p>木場 秀夫 久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 末光 正昌 豊澤 悟 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 康之 齋藤 隆明 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 本多 豊彦 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 ルニエイ マリ 山本 浩嗣 山本 雅博 脇田 雅文 神向寺 登美夫 永井 隆雄 山本 泰 阿部 洋太郎</p>
2015/10/28 (水) 2時限 10:40～12:10	循環障害の病理組織学	<p>【授業の一般目標】</p> <p>循環障害を理解するために、その分類、病因、病態及び医学的意義について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>1. 循環障害による主な疾患の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環血液量の異常の種類を列挙し、病理学的特徴について説明できる。 ・閉塞性の循環障害の種類を列挙し、病理学的特徴について説明できる。 	<p>木場 秀夫 久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 末光 正昌 豊澤 悟 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/10/28 (水) 2時限 10:40～12:10	循環障害の病理組織学	<p>【学習場所・媒体等】 第2 実習室, 顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102 教室、第2 実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 4 循環障害 ウ 閉塞性の循環障害</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 h 循環障害 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 4 循環障害 ア 全身の循環障害 イ 局所の血液分布異常</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-3) 循環障害 *①虚血、充血およびうっ血の徴候、原因および転帰を説明できる。 *②出血の原因、種類および転帰を説明できる。 *③血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。 *④塞栓の成因、種類および転帰を説明できる。 *⑤梗塞の種類、形態学的特徴および転帰を説明できる。 *⑥浮腫の原因とその転帰を説明できる。 *⑦ショックの成因と種類を説明できる。</p>	大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 本多 豊彦 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 ムコイ マリ 山本 浩嗣 山本 雅博 脇田 雅文 神向寺 登美夫 永井 隆雄 山本 泰 阿部 洋太郎
2015/11/04 (水) 1時限 09:00～10:30	修復と再生 (進行性病変)	<p>【授業の一般目標】 進行性病変を理解するために、組織・細胞の修復と再生に関する病因・病態及び生物学的意義について習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 増生 (過形成) と肥大について説明できる。 2. 修復と再生について解説できる。 3. 細胞・組織の再生能力について述べることができる。</p> <p>【準備学習項目】 ・細胞分裂周期について説明できる。 ・細胞分裂周期における形態学的特徴について解説できる。 ・幹細胞あるいは多分化能について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102 講堂, マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102 教室、第2 実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 3 修復と再生 イ 肥大、過形成 (増生)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 3 修復と再生 ウ 化生 エ 再生 オ 創傷治癒 カ 異物処理 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 h 循環障害</p>	宇都宮 忠彦
2015/11/04 (水) 2時限 10:40～12:10	修復と再生 (進行性病変)	<p>【授業の一般目標】 進行性病変を理解するために、組織・細胞の修復と再生に関する病因・病態及び生物学的意義について習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 化生について説明できる。 2. 創傷治癒に関与する細胞とその過程を解説できる。 3. 創傷治癒に関与する細胞とその過程を解説できる。 4. 異物処理機構について説明できる。 5. 細胞・組織の再生能力について述べることができる。</p> <p>【準備学習項目】 ・進行性病変の定義と種類について説明できる。</p>	宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/11/04 (水) 2時限 10:40~12:10	修復と再生 (進行性病変)	<p>【学習場所・媒体等】 102教室, マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 3 修復と再生 オ 創傷治癒</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 c 損傷 j 病的増殖 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 3 修復と再生 イ 肥大、過形成 (増生) ウ 化生 エ 再生 カ 異物処理</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-2) 修復と再生 *①修復と再生について説明できる。 *②化生を説明できる。 *③創傷治癒に関与する細胞とその過程を説明できる。 *④器質化を説明できる。</p>	宇都宮 忠彦
2015/11/11 (水) 1時限 09:00~10:30	進行性病変の病理組織学	<p>【授業の一般目標】 進行性病変を理解するために、その病理学組織学的特徴について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 進行性病変に含まれる代表的疾患の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・進行性病変の定義と種類について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第2実習室, 顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 3 修復と再生 イ 肥大、過形成 (増生)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 3 修復と再生 ウ 化生 エ 再生 オ 創傷治癒 カ 異物処理 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 c 損傷 j 病的増殖</p>	宇都宮 忠彦 久山 佳代 木場 秀夫 齋藤 美雪 末光 正昌 豊澤 悟 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 本多 豊彦 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 村守 マリ 山本 浩嗣 山本 雅博 脇田 雅文 神向寺 登美夫 永井 隆雄 山本 泰 阿部 洋太郎
2015/11/11 (水) 2時限 10:40~12:10	進行性病変の病理組織学	<p>【授業の一般目標】 進行性病変を理解するために、その病理組織学的特徴について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 進行性病変に分類される代表的疾患の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 進行性病変の定義と種類について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第2実習室, 顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p>	宇都宮 忠彦 久山 佳代 木場 秀夫 齋藤 美雪 末光 正昌 豊澤 悟 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 茂田 里恵

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/11/11 (水) 2時限 10:40～12:10	進行性病変の病理組織学	<p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 3 修復と再生 エ 再生</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 c 損傷 j 病的増殖 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 3 修復と再生 イ 肥大、過形成（増生） ウ 化生 エ 再生 カ 異物処理</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-2) 修復と再生 *①修復と再生について説明できる。 *②化生を説明できる。 *③創傷治癒に関与する細胞とその過程を説明できる。 *④器質化を説明できる。</p>	白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 本多 豊彦 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 ムコイ マリ 山本 浩嗣 山本 雅博 脇田 雅文 神向寺 登美夫 永井 隆雄 山本 泰 阿部 洋太郎
2015/11/18 (水) 1時限 09:00～10:30	病因・病態の包括(1)	<p>【授業の一般目標】 病因・病態についての理解の状況を知るために、病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変に関する病理学的知識を包括・整理する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変の病理学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変に関する病理学的知見について解説できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室(第2実習室)</p> <p>【学習方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 2 細胞組織の傷害 ア 代謝障害(変性)</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 1 4 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常、発育異常 i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 2 細胞組織の傷害 ア 代謝障害(変性) イ 萎縮 ウ 細胞死 4 循環障害 ア 全身の循環障害 イ 局所の血液分布異常 ウ 閉塞性の循環障害</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-3) 循環障害 *①虚血、充血およびうっ血の徴候、原因および転帰を説明できる。 *②出血の原因、種類および転帰を説明できる。 *③血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。 *④塞栓の成因、種類および転帰を説明できる。 *⑤梗塞の種類、形態学的特徴および転帰を説明できる。 *⑥浮腫の原因とその転帰を説明できる。 *⑦ショックの成因と種類を説明できる。</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 木場 秀夫 田中 秀邦 齋藤 美雪 末光 正昌
2015/11/18 (水) 2時限 10:40～12:10	病因・病態の包括(1)	<p>【授業の一般目標】 病因・病態を理解するために、病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変の病理学的特徴を包括・整理する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変の病理学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変の病理学的知見について解説で</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 木場 秀夫 田中 秀邦 齋藤 美雪 末光 正昌

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/11/18 (水) 2時限 10:40～12:10	病因・病態の包括 (1)	<p>きる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室(第2実習室)</p> <p>【学習方略(LS)】 演習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 4 循環障害 ウ 閉塞性の循環障害</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 c 損傷 j 病的増殖 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 1 病因論 ア 染色体・遺伝子・発生の異常 イ 環境と疾患 3 修復と再生 イ 肥大、過形成 (増生) ウ 化生 エ 再生 オ 創傷治癒 カ 異物処理</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-1) 細胞傷害、組織傷害および萎縮 *①細胞傷害と組織傷害について説明できる。【変性を含む。】 *②壊死の多様性、原因、意義および形態的所見の特徴を説明できる。 *③アポトーシスと疾患の関連性について説明できる。 *④萎縮と仮性肥大を説明できる。 C-4-2) 修復と再生 *①修復と再生について説明できる。 *②化生を説明できる。 *③創傷治癒に関与する細胞とその過程を説明できる。 *④器質化を説明できる。</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 木場 秀夫 田中 秀邦 齋藤 美雪 末光 正昌
2015/11/25 (水) 1時限 09:00～10:30	炎症	<p>【授業の一般目標】 炎症を理解するために、その病因、経過、分類、病態及び医学的意義について学習する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 炎症の定義と発生機序について解説できる。 2. 5つの臨床症状とその病理組織学的な裏付けについて説明できる。 3. 炎症の分類、病理組織学的特徴及び経時的变化について述べるができる。</p> <p>【準備学習項目】 ・炎症のケミカルメディエーターについて説明できる。 ・白血球、リンパ球、形質細胞、マクロファージ、NK細胞等の炎症性細胞の機能について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室、マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 5 炎症 ア 炎症の概念</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 5 炎症 イ 炎症の原因 ウ 炎症に関与する細胞 エ 炎症の機序・病態 オ 急性炎症、慢性炎症 カ 肉芽腫性炎の種類・特徴 6 感染症、アレルギー、免疫疾患 カ 自己免疫疾患 キ アレルギー反応(過敏症)</p>	久山 佳代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/11/25 (水) 1時限 09:00～10:30	炎症	<p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-4) 炎症 *①炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】 *②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 *③滲出性炎の種類と病理組織学的特徴および経時的变化を説明できる。 *④肉芽腫性炎の種類と病理組織学的な特徴および経時的变化を説明できる。</p>	久山 佳代
2015/11/25 (水) 2時限 10:40～12:10	炎症	<p>【授業の一般目標】 炎症を理解するために、その病因、経過、分類、病態及び医学的意義について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 変質性炎の病態と代表的疾患について説明できる。 2. 滲出性炎の成因、種類、形態学的特徴及び代表的疾患について解説できる。 3. 増殖性炎や肉芽腫性炎の成因、種類、形態学的特徴及び代表的疾患について説明できる。 4. 膠原病と自己免疫疾患を列挙することができる。 5. 膠原病と自己免疫疾患の成因及び病態について解説できる。 6. アレルギー性炎の成因、種類、形態学的特徴及び代表的疾患について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・炎症のケミカルメディエーターについて説明できる。 ・白血球、リンパ球、形質細胞、マクロファージ、NK細胞等の炎症性細胞の機能について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室、マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 5 炎症 エ 炎症の機序・病態</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 5 炎症 ア 炎症の概念 イ 炎症の原因 ウ 炎症に関与する細胞 オ 急性炎症、慢性炎症 カ 肉芽腫性炎の種類・特徴</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-4) 炎症 *①炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】 *②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 *③滲出性炎の種類と病理組織学的特徴および経時的变化を説明できる。 *④肉芽腫性炎の種類と病理組織学的な特徴および経時的变化を説明できる。</p>	久山 佳代
2015/12/02 (水) 1時限 09:00～10:30	炎症の病理組織学	<p>【授業の一般目標】 炎症を理解するために、その病因、経過、分類、病態及び医学的意義について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 代表的な炎症性疾患の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・炎症性細胞の役割について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第2実習室、顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 5 炎症</p>	木場 秀夫 久山 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 末光 正昌 豊澤 悟 田中 秀邦 新崎 博文 又 俊 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 本多 豊彦 松村 由香

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/12/02 (水) 1時限 09:00～10:30	炎症の病理組織学	<p>ア 炎症の概念 イ 炎症の原因 ウ 炎症に関与する細胞 エ 炎症の機序・病態 オ 急性炎症、慢性炎症 カ 肉芽腫性炎の種類・特徴</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-4) 炎症 *①炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】 *②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 *③滲出性炎の種類と病理組織学的特徴および経時的变化を説明できる。 *④肉芽腫性炎の種類と病理組織学的な特徴および経時的变化を説明できる。</p>	<p>三宅 正純 村守 樹理 ルニエイ マリア 山本 浩嗣 山本 雅博 脇田 雅文 神向寺 登美夫 永井 隆雄 山本 泰 阿部 洋太郎</p>
2015/12/02 (水) 2時限 10:40～12:10	炎症の病理組織学	<p>【授業の一般目標】 炎症を理解するために、その病因、経過、分類、病態及び医学的意義について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 代表的な炎症性疾患の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・炎症性細胞の役割について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第2実習室、顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 5 炎症 ア 炎症の概念 イ 炎症の原因 ウ 炎症に関与する細胞 エ 炎症の機序・病態 オ 急性炎症、慢性炎症 カ 肉芽腫性炎の種類・特徴</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-4) 炎症 *①炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】 *②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 *③滲出性炎の種類と病理組織学的特徴および経時的变化を説明できる。 *④肉芽腫性炎の種類と病理組織学的な特徴および経時的变化を説明できる。</p>	<p>木場 秀夫 山久 佳代 宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 末光 正昌 豊澤 悟 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 中城 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 本多 豊彦 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 ルニエイ マリア 山本 浩嗣 山本 雅博 脇田 雅文 神向寺 登美夫 山本 泰 阿部 洋太郎</p>
2015/12/09 (水) 1時限 09:00～10:30	病理検査	<p>【授業の一般目標】 病理学の病院での役割を理解するために、病理検査の基本的事項について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 病理検査の意義について説明できる。 2. 病理検査の種類と手技の基本について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 病変の分類</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室、マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 11 検査の基本 カ 病理検査 b 組織診</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論IX 検査 3 検体検査 キ 病理組織学検査、細胞診</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本</p>	<p>末光 正昌 久山 佳代 宇都宮 忠彦</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/12/09 (水) 1時限 09:00～10:30	病理検査	E-1-1) 基本的診療技能 *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。	末光 正昌 久山 佳代 宇都宮 忠彦
2015/12/09 (水) 2時限 10:40～12:10	免疫の病理学	<p>【授業の一般目標】 免疫とその異常を理解するために、免疫反応の機序、アレルギー及び自己免疫疾患の病理学的特徴について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 細胞性免疫について説明できる。 2. 体液性免疫について説明できる。 3. 自己免疫異常について説明できる。 4. アレルギーの分類、発生機序及び代表的疾患について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・抗原・抗体反応について説明できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 6 感染症、アレルギー、免疫疾患 カ 自己免疫疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 6 感染症、アレルギー、免疫疾患 ウ 宿主側の因子 エ 感染症 オ 免疫不全 キ アレルギー反応 (過敏症)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-2) 免疫 *②細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。【抗体の種類と特徴を含む。】 *③免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。 *④自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。 *⑤アレルギーの分類を説明できる。【発生機序を含む。】 *⑥免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。</p>	豊澤 悟
2015/12/16 (水) 1時限 09:00～10:30	先天異常・奇形	<p>【授業の一般目標】 先天異常・奇形を理解するために、その成り立ち、分類及び病態について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 先天異常の成因について述べるができる。 2. 遺伝性疾患について説明できる。 3. 染色体異常について解説できる。 4. 奇形の定義について述べるができる。 5. 奇形の成因及び病態について解説できる。 6. 顎顔面口腔領域に部分症を現す症候群や系統疾患の成り立ち、分類及び病態 7. 顎顔面口腔領域に部分症を現す症候群や系統疾患の基本的な病理学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・先天異常の種類や代表的疾患を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室、マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常、発育異常</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 ア 先天異常・後天異常</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。</p>	久山 佳代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/12/16 (水) 1時限 09:00～10:30	先天異常・奇形		久山 佳代
2015/12/16 (水) 2時限 10:40～12:10	嚢胞	<p>【授業の一般目標】 嚢胞を理解するために、その成り立ち、分類及び病態について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 嚢胞の定義について述べることができる。 2. 嚢胞の分類について説明できる。 3. 顎骨に発生する嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的特徴について説明できる。 4. 軟組織に発生する嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・嚢胞の定義について述べることができる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室、マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 カ 嚢胞</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 f 嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *①顎骨に発生する歯源性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *②顎骨に発生する非歯源性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *③軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を列挙できる。</p>	山本 浩嗣
2016/01/13 (水) 1時限 09:00～10:30	腫瘍	<p>【授業の一般目標】 腫瘍を理解するために、その病因、分類、病態及び生物学的意義について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 上皮性組織と非上皮性組織について説明できる。 2. 腫瘍の定義を述べることができる。 3. 細胞分裂周期と形態学的特徴について解説できる。 4. 非歯源性腫瘍を列挙できる。 5. 腫瘍の発生原因と組織発生 (多段階説) を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・上皮性組織と非上皮性組織について説明できる。 ・腫瘍の定義を述べることができる。 ・細胞分裂周期と形態学的特徴について解説できる。 ・非歯源性腫瘍を列挙できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室、マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 7 腫瘍 ア 腫瘍の概念 イ 腫瘍発生の病因 ウ 腫瘍の疫学 エ 腫瘍の発育様式 オ 腫瘍の組織学的構造</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-5) 腫瘍 *①腫瘍の定義を説明できる。</p>	宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/01/13 (水) 1時限 09:00～10:30	腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> *②腫瘍の病因を説明できる。 *③異形成を説明できる。 *④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 *⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 *⑥局所における腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。 	宇都宮 忠彦
2016/01/13 (水) 2時限 10:40～12:10	腫瘍	<p>【授業の一般目標】 腫瘍を理解するために、その病因、分類、病態及び生物学的意義について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腫瘍の発生原因と組織発生 (多段階説) を説明できる。 2. 腫瘍の分類について説明できる。 3. 良・悪性腫瘍の肉眼的及び病理組織学的鑑別点について述べるができる。 4. 上皮性及び非上皮性腫瘍の病理組織学的特徴について解説できる。 5. 非歯源性腫瘍の病理組織学的特徴について解説できる。 6. 異形成、退形成及び分化について説明できる。 7. 腫瘍の異型性と多形性について解説できる。 8. 腫瘍の浸潤、発育及び転移様式について説明できる。 9. 悪性腫瘍の進行度について解説できる。 <p>【準備学習項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上皮性組織と非上皮性組織について説明できる。 ・腫瘍の定義を述べるができる。 ・細胞分裂周期と形態学的特徴について解説できる。 ・非歯源性腫瘍を列挙できる。 <p>【学習場所・媒体等】 102教室、マルチメディアの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 7 腫瘍 カ 構造異型、細胞異型 キ 良性腫瘍、悪性腫瘍 ク 前癌状態、前癌病変 ケ 腫瘍と宿主の関係</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-5) 腫瘍 *①腫瘍の定義を説明できる。 *②腫瘍の病因を説明できる。 *③異形成を説明できる。 *④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 *⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 *⑥局所における腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。</p>	宇都宮 忠彦
2016/01/20 (水) 1時限 09:00～10:30	腫瘍の病理組織学	<p>【授業の一般目標】 腫瘍を理解するために、その病因、分類、病態及び医学的意義について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な腫瘍の病理組織学的特徴について説明できる。 <p>【準備学習項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上皮性組織と非上皮性組織について説明できる。 ・腫瘍の定義を述べるができる。 ・細胞分裂周期と形態学的特徴について解説できる。 ・非歯源性腫瘍を分類できる。 <p>【学習場所・媒体等】 第2実習室、顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 7 腫瘍 ア 腫瘍の概念 イ 腫瘍発生の病因</p>	宇都宮 忠彦 久山 佳代 木場 秀夫 齋藤 美雪 末光 正昌 豊澤 悟 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 歩 齋藤 康之 茂田 隆明 白川 里恵 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 吉夫 玉城 啓介 中澤 十四夫 中島 文彦 中村 孝宏 西山 林 正人 本多 豊彦 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 丸ノエ マリア 山本 浩嗣 山本 雅博 脇田 雅文

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/01/20 (水) 1時限 09:00~10:30	腫瘍の病理組織学	<p>ウ 腫瘍の疫学 エ 腫瘍の発育様式 オ 腫瘍の組織学的構造 カ 構造異型、細胞異型 キ 良性腫瘍、悪性腫瘍 ク 前癌状態、前癌病変 ケ 腫瘍と宿主の関係</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-5) 腫瘍 *①腫瘍の定義を説明できる。 *②腫瘍の病因を説明できる。 *③異形成を説明できる。 *④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 *⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 *⑥局所における腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。</p>	神向寺 登美夫 永井 隆雄 山本 泰 阿部 洋太郎
2016/01/20 (水) 2時限 10:40~12:10	腫瘍の病理組織学	<p>【授業の一般目標】 腫瘍を理解するために、その病因、分類、病態及び医学的意義について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 代表的な腫瘍の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 ・上皮性組織と非上皮性組織について説明できる。 ・腫瘍の定義を述べることができる。 ・細胞分裂周期と形態学的特徴について解説できる。 ・非菌原性腫瘍を分類できる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 第2実習室、顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学習方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 7 腫瘍 ア 腫瘍の概念 イ 腫瘍発生の病因 ウ 腫瘍の疫学</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-5) 腫瘍 *①腫瘍の定義を説明できる。 *②腫瘍の病因を説明できる。 *③異形成を説明できる。 *④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 *⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 *⑥局所における腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。</p>	宇都宮 忠彦 久山 佳代 木場 秀夫 齋藤 美雪 末光 正昌 豊澤 悟 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 大村 光浩 黒子 光雄 小泉 康之 小泉 隆明 齋藤 里恵 茂田 誠二 白川 彰 鈴木 慶洋 鈴木 強 田中 吉夫 玉城 啓介 中澤 十四夫 中島 文彦 中村 孝宏 西山 正人 林 豊彦 本多 由香 松村 正純 三宅 純 村守 樹理 ルニエイ マリア 山本 浩嗣 山本 雅博 脇田 雅文 神向寺 登美夫
2016/01/27 (水) 1時限 09:00~10:30	病因・病態の包括 (2)	<p>【授業の一般目標】 病因・病態を理解するために、炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍の病理学的知識を包括・整理する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍の病理学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍の病理学的知見を整理する。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室(第2実習室)</p> <p>【学習方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常、発育異常</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 木場 秀夫 齋藤 美雪 末光 正昌 山本 浩嗣 山本 豊澤 悟

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/01/27 (水) 1時限 09:00～10:30	病因・病態の包括 (2)	d 炎症 f 嚢胞 g 腫瘍 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-4) 炎症 *①炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】 *②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 *③滲出性炎の種類と病理組織学的特徴および経時的变化を説明できる。 *④肉芽腫性炎の種類と病理組織学的な特徴および経時的变化を説明できる。	久山 佳代 宇都宮 忠彦 木場 秀夫 齋藤 美雪 末光 正昌 山本 浩嗣 豊澤 悟
2016/01/27 (水) 2時限 10:40～12:10	病因・病態の包括 (2)	【授業の一般目標】 病因・病態を理解するために、炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍の病理学的知識を包括・整理する。 【準備学習項目】 炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍の病理学的知識を整理する。 【学習場所・媒体等】 102教室(第2実習室) 【学習方略(LS)】 演習 【場所(教室/実習室)】 102教室、第2実習室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍 【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常、発育異常 d 炎症 f 嚢胞 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-5) 腫瘍 *①腫瘍の定義を説明できる。 *②腫瘍の病因を説明できる。 *④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 *⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 *⑥局所における腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *①顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *②顎骨に発生する非歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *③軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *⑥非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 *⑩口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類、症状および治療法を説明できる。	久山 佳代 宇都宮 忠彦 木場 秀夫 齋藤 美雪 末光 正昌 山本 浩嗣 豊澤 悟
2016/02/03 (水) 1時限 09:00～10:30	病因・病態の包括 (3)	【授業の一般目標】 病因・病態を理解するために、これまで学習した病因論、退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍に関する病理学的知識を包括・整理する。 【行動目標(SBOs)】 1. 病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変に関する病理学的特徴を説明できる。 2. 炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍に関する病理学的特徴を説明できる。 【準備学習項目】 病因論、退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍に関する病理学的知見を整理する。 【学習場所・媒体等】 102教室(第2実習室) 【学習方略(LS)】 演習 【場所(教室/実習室)】 102教室、第2実習室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽 【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常、発育異常	久山 佳代 宇都宮 忠彦 木場 秀夫 齋藤 美雪 末光 正昌 山本 浩嗣 豊澤 悟 田中 秀邦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/02/03 (水) 1時限 09:00～10:30	病因・病態の包括 (3)	<p>c 損傷 d 炎症 f 嚢胞 g 腫瘍 h 循環障害 i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽 j 病的増殖</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-1) 細胞傷害、組織傷害および萎縮 *①細胞傷害と組織傷害について説明できる。【変性を含む。】 *②壊死の多様性、原因、意義および形態的所見の特徴を説明できる。 *④萎縮と仮性肥大を説明できる。 C-4-2) 修復と再生 *①修復と再生について説明できる。 *②化生を説明できる。 *③創傷治癒に関与する細胞とその過程を説明できる。 *④器質化を説明できる。</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 木場 秀夫 齋藤 美雪 末光 正昌 山本 浩嗣 豊澤 悟 田中 秀邦
2016/02/03 (水) 2時限 10:40～12:10	病因・病態の包括 (3)	<p>【授業の一般目標】 病因・病態を理解するために、これまでに学習した病因論、退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍に関する病理学的知識を包括・整理する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変に関する病理学的特徴を説明できる。 2. 炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍に関する病理学的特徴を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 病因論、退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍に関する病理学的知見を整理する。</p> <p>【学習場所・媒体等】 102教室(第2実習室)</p> <p>【学習方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常、発育異常 c 損傷 f 嚢胞 g 腫瘍 h 循環障害 i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽 j 病的増殖</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-3) 循環障害 *①虚血、充血およびうっ血の徴候、原因および転帰を説明できる。 *②出血の原因、種類および転帰を説明できる。 *⑤梗塞の種類、形態学的特徴および転帰を説明できる。 *⑥浮腫の原因とその転帰を説明できる。 C-4-4) 炎症 *③滲出性炎の種類と病理組織学的特徴および経時的变化を説明できる。 *④肉芽腫性炎の種類と病理組織学的な特徴および経時的变化を説明できる。 C-4-5) 腫瘍 *①腫瘍の定義を説明できる。 *②腫瘍の病因を説明できる。 *④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 *⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。</p>	久山 佳代 宇都宮 忠彦 木場 秀夫 齋藤 美雪 末光 正昌 山本 浩嗣 豊澤 悟 田中 秀邦